http://ncbungaku2013.web.fc2.com/
日・中文学翻訳館／李清照＃LI-1 2019.4.20

# 第一期・少女時代

李清照が少女時代に舟遊びを楽しんだ大明湖の蓮池

hú shàng fēng lái bō hào miǎo，qiū yǐ mù、hóng xī xiāng shǎo
湖 上 风 来 波 浩 渺，秋 已 暮、红 稀 香 少。

湖上のさざ波が風に吹かれ　向こうのほうまで広がっていった。
秋は深まり紅色の蓮の花もわずかとなり　香りも弱くなった。

shuǐ guāng shān sè yú rén qīn，shuō bù jìn、wú qióng hǎo
水 光 山 色 与 人 亲，说 不 劲、无 穷 好。

自然の景色には親しみが感じられ、
その素晴らしさはことばでは言い尽くせない。

lián　zǐ　yǐ chéng hé yè lǎo，　qīng lù xǐ、　píng huā tīng cǎo
莲 子 已 成 荷 叶老，青 露 洗、苹 花 汀 草。

蓮の実は成り　葉は枯れようとしていて、
透き通った水滴が　水草を洗うように転がっていく。

mián shā ōu lù　bù huí　tóu，　shì yě hèn、　rén guī zǎo
眠 沙 鸥 鹭 不 回 头，似 也 恨、人 归 早。

砂浜で眠っていたカモメやサギは　こちらを振り向きもしない。
「もう帰るのか」と、恨み言でも言いたいの？

蓮池の景色が、まるで目の前に浮かんでくるように描写されているこの詞は、李清照が少女のころに詠んだものである。彼女が優れた詩（詞）才の持ち主であることがこの詞からじゅうぶんに推し量られる。

李清照は「詩人」であると同時に「詞人」でもあった。詞人というのはあまり日本人にはなじみがないが、歌詞を作る人、現代風に言えば作詞家にあたる。ただし現代の作詞と違って、定まった押韻の規則にのっとって作詞しなければならない。元歌となるものが唐代から伝わっていて、その元歌のメロディーにあらたに詞を付ける、つまり替え歌というとわかりやすいかもしれない。
替え歌というと響きはあまりよくないが、複雑な押韻の規則やそのほかの規則にのっとって詞を作るためにはそれ相応の文学的な知識と素養が必要とされるのである。

李清照は父親が進士（中国宋代以降、官僚登用試験に合格した者）、母親が状元（進士の首席合格者）の孫という知的エリートの家に生まれ、十分な教育を受けて育った。

若くしてその才能を開花させ、趙明誠という人物と結婚する前に、すでに詞人としての名を馳せていた。

彼女が生まれたのは父親の任地であった章丘（現山東省済南）で、ここは昔から文人墨客が集い、その自然を賞賛した景勝の地である。数多くの泉が湧き出ていて、今は一大観光地となり内外から多くの遊覧客を引き寄せている。

李清照も幼いころから家族で大明湖などに遊び、蓮池は特に好んで遊んだところだった。

chang jì xī tíng rì mù, chén zuì bù zhī guī lù

**常 记 溪 亭 日 暮，沉 醉 不 知 归 路。**

酔いつぶれて寝てしまい、帰り道がわからなくなったあの日の夕暮れのできごとを、今でもよく思い出す。

xìng jìn wǎn huí zhōu, wù rù ǒu huā shēn chù

**兴 尽 晚 回 舟，误 入 藕 花 深 处。**

もうじゅうぶん遊んだからと、遅くになって舟に乗って帰ろうとしたら蓮の深い茂みの中に迷いこんでしまった。

zhēng dù, zhēng dù , jīng qǐ yī tān ōu lù

**争 渡，争 渡， 惊 起 一 滩 鸥 鹭。**

一生懸命になって舟を進めていたら、
かもめや鷺が驚いて一斉に飛び立っていった。

（溪亭：大明湖畔にあった休息所。）

この詞が詠まれたのは結婚後のことだと思われるが、この舟遊びをした当時の彼女は十五歳ぐらいだった。十五歳で酒に酔うというのは現代では考えられないのだが、当時の十五歳の女性はもう大人として扱われ、特に彼女の家は文人の集う家であり、詩文と酒は切っても切れない文士御用達のアイテムである。彼女が酒に親しんでいったのは当然といえば当然の成り行きだったのだろう。

李清照には酒を詠んだ詞が多い。それは彼女自身が酒好きだったことにもよるが、酒を飲まないではいられない状況が生まれたことも、大きな要因になっている。その一つが趙明誠との結婚である。趙明誠とはいったいどういう人物だったのだろう。

❒❒❒❒❒